

▶ 経営成績に関する分析

🔵 事業の経過およびその成果

【経済状況】

新型コロナウイルス感染症が全世界に蔓延している中で、当連結会計年度の世界経済は、6月以降、米国・欧州・中国・ASEANなどで、全体として回復基調にあります。

【自動車業界】

自動車業界におきましても、販売台数は概ね新型コロナウイルス発生前のレベルまで回復しました。

【取り組み】

当社グループでは、「安全第一の徹底と健康づくりの推進」「グループを挙げた品質の確保」「人材の育成と労働の質向上」「グローバルでのモノづくり・供給体制の着実な強化」「より高いレベルの安全・安心・快適を提供する次世代製品・商品の開発」「収益基盤の強化に向けた取り組み」に持続的に取り組んでまいりました。

主なトピックスは、以下のとおりです。

〈協業と技術提携〉

既存事業では、従来の事業、商権の枠では収まらない事業を進めるために、必要に応じて異業種を含めた協業・技術提携を推進しています。

競合先でもあるアルプスアルパインとHMI領域での共同開発、dotD(ドットディー)との協業している「TOKAI RIKAI Digitalkey」の車向けデジタルキー「FREEKEY for CAR」を、DeNA SOMPO Mobilityが展開しているカーシェアサービス「Anyca(エニカ)」への提供を開始しました。

〈社長・副社長直轄組織の新設による経営スピードアップ〉

社会課題と、当社における重要課題に対しスピード感をもって対応するべく、ビジネス領域の開拓を行うニュービジネスマーケティング部、環境マネジメント推進体制の強化のためのカーボンニュートラル戦略推進室、そして、デジタル化のスピーディーな推進を狙うDX推進タスクフォースを社長・副社長直轄組織として新設しました。

〈社会課題解決型事業への参画〉

福島県会津若松市のスマートシティプロジェクトへの参画により、地域の皆様の課題を体感しながら、人々の暮らしがより豊かに、より便利になる、新しい価値づくりに取り組んでいます。

また、静岡県浜松市において、自動車を活用した新たな働き方の提案や、浜松市の未来に向け共創するデザイン思考型ワークショップを開催しています。

〈事業ノウハウを活かした社会貢献の推進〉

新型コロナの感染拡大を受けて、フェイスシールドを社内にて設計から製造を行い、医療機関等へ無償提供を行いました。

また、ドアノブや、つり革等に触れることなく、操作、保持できる商品(『Mgrip』『Re-Leaf』)を制作し、クラウドファンディングを通じて、提供しました。

本社のある大口町とは、大規模災害発生時に備えて支援内容等についてあらかじめ定め、連携協力して被害を最小限にするための協定を締結しました。

▶ 財政状態に関する分析

🔵 資産、負債及び純資産の状況

■ 資産

資産は419,259百万円となり、前連結会計年度末に比べ、40,770百万円増加いたしました。これは、主に売上債権、棚卸資産及び投資有価証券の増加によるものであります。

■ 負債

負債は148,983百万円となり、前連結会計年度末に比べ、11,517百万円増加いたしました。これは、主に仕入債務の増加によるものであります。

■ 純資産

純資産は270,276百万円となり、前連結会計年度末に比べ、29,253百万円増加いたしました。これは、主にその他の包括利益累計額の増加によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の60.3%から60.9%となりました。

🔵 キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、69,604百万円となり前連結会計年度末より4,175百万円増加いたしました。

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果獲得した資金は前連結会計年度に比べ、5,664百万円減少し、34,682百万円となりました。これは主に税金等調整前当期純利益が3,806百万円減少した結果であります。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は前連結会計年度に比べ、5,216百万円増加し、27,505百万円となりました。これは主に有価証券の売却及び償還による収入が9,100百万円減少した結果であります。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は前連結会計年度に比べ、2,247百万円減少し、4,525百万円となりました。これは主に配当金の支払額が1,278百万円減少した結果であります。